

第 23 回 日本有病者歯科医療学会総会 AHA-BLS コース開催のご案内

—AHA Japan ITO BLS for Healthcare Provider Course— (最新のガイドライン 2010 準拠)

この度、第 23 回(一社)日本有病者歯科医療学会総会・学術大会において喜久田利弘大会長(福岡大学医学部 教授)のご協力により、学会としては 15 回目となる AHA-BLS コースを開催致します。

救命救急研修会の受講は、(一社)日本有病者歯科医療学会認定医・指導医の申請要件の 1 つになっておりますので会員各位には奮ってご参加頂きますようご案内致します。今回のコースは最新のガイドライン 2010 に準拠しています。

記

1. 日 時：平成 25 年 3 月 23 日(日) 午前 9 時～午後 4 時 30 分(予定)
2. 会 場：福岡国際会議場
3. 主 催：口腔外科 ECC トレーニングサイト
4. 共 催：(社)日本有病者歯科医療学会
5. 対 象：原則として、日本有病者歯科医療学会会員並びに福岡県歯科医師会会員
6. 募集定員：24 名(先着申込順)
7. 申し込み：平成 25 年 1 月 23 日～3 月 14 日(先着順)
8. 受講料：18,000 円(テキスト、フェイスマスクは別途各自でご購入ください)

※テキストは「BLS ヘルスケアプロバイダー受講者マニュアル G2010 日本語版」になります。
日本 ACLS 協会 (<http://www.acls.jp/>) またはシェパード株式会社 (<http://www.e-shepherd.jp/>) より、テキストとフェイスマスクの BLS 受講セットが販売されています。
テキストのみは最寄りの医学書書店でも販売しています。

9. 申込方法および問い合わせ先

受講申し込み

日本 ACLS 協会の HP(<http://www.acls.jp/index.php>) からお願い致します。

申し込みの詳細

協会 HP の「トレーニングコースのご案内」
↓
「BLS または ACLS ヘルスケアプロバイダー」を選択
↓
「このコースを受講する」を選択
↓
開催場所を「口腔外科 ECC-TS」を選択、開催日程は「上記の受講希望日を選択」
↓
「検索」を選択して申し込んでください

問い合わせ先

聖マリアンナ医科大学川崎市立多摩病院 歯科口腔外科 石井宏昭

E-Mail : ishii-h@marianna-u.ac.jp(お問い合わせはメールのみとなります)

第 23 回 (社)日本有病者歯科医療学会 総会・学術大会のご案内

第 23 回 (社)日本有病者歯科医療学会総会・学術大会

大会長：喜久田利弘 (福岡大学医学部 教授)

副大会長：長谷 宏一 ((社)福岡県歯科医師会 会長)

後援：(社)福岡県歯科医師会, (社)福岡市歯科医師会

会 期：2014 年 3 月 21 日(金)・22(土)・23(日)

会 場：2014 年 3 月 21 日 福岡県歯科医師会館 (理事会, 代議員会, 各種委員会, 県民公開講座)

〒 810-0041 福岡市中央区大名 1 丁目 12 番 43 号 TEL：092-771-3531

22 日・23 日 福岡国際会議場 (総会・学術大会)

〒 812-0032 福岡県福岡市博多区石城町 2-1 TEL：092-262-4111

学会テーマ：「原点回帰：患者の基礎疾患を読む」

日 程：3 月 21 日(金) 理事会, 代議員会, 各種委員会, 県民公開講座, 役員懇親会

3 月 22 日(土) 学術大会, 学術教育研修会, 社員報告会, 会員懇親会

3 月 23 日(日) 学術大会, AHA-BLS コース, ICD 認定講習会

I. 基調講演

「歯科医療の責務 ―その現状と未来―」 [3 月 22 日 (土)]

大久保満男 先生 (日本歯科医師会会長)

II. 理事長講演

「本学会の進むべき姿」 [3 月 22 日 (土)]

今井 裕 先生 (獨協医科大学医学部口腔外科学講座)

III. 海外招待講演

「タイにおける有病者の歯科外科治療」 [3 月 22 日 (土)]

Dr. Chumpot Itthichaisri (Chulalongkorn University)

IV. 特別講演

「良い印象の言葉力」 [3 月 23 日 (日)]

宮本 隆治 殿 (元 NHK アナウンサー)

V. 教育講演 (県民公開講座)

「幸せはお口の健康から！ 健康寿命をのばすためにできること～心臓病, 糖尿病と歯科治療～」

1) 「糖尿病と歯科治療」 [3 月 21 日 (金)]

堀之内康文 先生 (公立学校共済 九州中央病院歯科口腔外科)

2) 「心臓病と歯科治療」 [3 月 21 日 (金)]

吉川 博政 先生 (国立病院機構九州医療センター歯科口腔外科)

VI. シンポジウム

シンポジウム 1：「BRONJ Stage II 症例に対する外科的治療について」 [3 月 22 日 (土)]

喜久田利弘 先生 (福岡大学医学部医学科歯科口腔外科学講座)

林田 咲 先生 (長崎大学大学院医歯薬学総合研究科口腔腫瘍治療学分野)

矢郷 香 先生 (国際医療福祉大学三田病院歯科口腔外科)

シンポジウム 2：「周術期口腔機能管理を要する癌治療」 [3 月 22 日 (土)]

上川 善昭 先生 (鹿児島大学医学部・歯学部付属病院口腔顎顔面センター口腔外科)

山下 裕一 先生 (福岡大学医学部医学科消化器外科学講座)

岩崎 昭憲 先生 (福岡大学医学部医学科呼吸器・乳腺内分泌・小児外科学講座)

高松 泰 先生 (福岡大学医学部医学科血液・腫瘍・感染症内科学講座)

シンポジウム 3：「歯科と関連する全身疾患」[3月22日(土)]

村瀬 邦崇 先生(福岡大学医学部医学科内分泌・糖尿病内科学講座)

石井 寛 先生(福岡大学医学部医学科呼吸器内科学講座)

三宅 勝久 先生(福岡大学医学部医学科腎臓・膠原病内科学講座)

シンポジウム 4：「新しい抗血栓療法と抜歯」[3月23日(日)]

中居 賢司 先生(岩手医科大学歯学部口腔医学講座)

川又 均 先生(獨協医科大学口腔外科学講座)

岩渕 博史 先生(神奈川歯科大学歯学部顎顔面外科学講座)

シンポジウム 5：「循環器疾患と歯科治療」[3月23日(日)]

森本 佳成 先生(大阪大学大学院歯学研究科総合機能口腔科学専攻高次脳口腔機能学講座歯科麻酔学教室)

中野みゆき 先生(医療法人社団三思会くすの木病院歯科口腔外科)

阿部 佳子 先生(鶴見大学歯学部歯科麻酔学講座)

シンポジウム 6：「円滑な医療連携のためにできること」[3月23日(日)]

大木 秀朗 先生(日本大学歯学部口腔外科学分野)

曾我部浩一 殿(福岡県庁保健医療介護部医療指導課)

山口 章 先生(福岡県歯科医師会 委員)

Ⅶ. 学術教育研修会

有病者の安全な周術期管理 ～鎮静法を中心に～ [3月22日(土)]

河原 博 先生(鶴見大学歯学部歯科麻酔学講座)

石垣 佳希 先生(日本歯科大学付属病院 ハイリスク診療センター)

小笠原健文 先生(町田市民病院歯科・歯科口腔外科)

Ⅷ. 教育講演

臨床研究のあり方について [3月23日(日)]

野田 慶太 先生(福岡大学病院臨床研究支援センター)

Ⅸ. その他

ランチョンセミナー/AHA-BLS コース/ICD 認定講習会

X. 一般口演

XI. 学会参加費

一 般：事前申込 12,000 円 / 当日 15,000 円

コメディカル：事前申込 5,000 円 / 当日 6,000 円

学術教育研修会：前 納 2,000 円(前納された方は修了証をお渡しします)

学 生：無 料

会 員 懇 親 会：3,000 円(多数の御参加をお待ちしております)

*事前申込は、下記振込先に学会参加費をお振込後、添付別紙「事前申込書」に「振込票、兼、領収書」を貼付の上、必要事項を記入して FAX：092-801-1044 に送信して下さい。

前納締め切り：平成 26 年 1 月 31 日

【振込先】

銀 行 名：(株)福岡銀行 七隈支店

口座番号：普通 1405982

口 座 名：第 23 回日本有病者歯科医療学会総会・学術大会
大会長 喜久田利弘

第 23 回日本有病者歯科医療学会総会・学術大会

事前申込書

(送信先：FAX：092-801-1044)

チェック欄	参加区分	参加費（前納）
	一 般	12,000 円
	コメディカル	5,000 円
	学術教育研修会	2,000 円
	学生（大学院生除く）	無 料
	会員懇親会	3,000 円

ここに「振込票兼領収書」
を貼って下さい

*左部分にはみ出しても問題ありませんが、左のチェック欄を隠さないように貼付して下さい。

振込先

銀 行 名：(株)福岡銀行七隈支店

口座番号：普通 1 4 0 5 9 8 2

口 座 名：第 23 回日本有病者歯科医療学会総会・
学術大会大会長喜久田利弘

ふ り が な	
参 加 者 名	
所 属 施 設 名	
所 属 施 設 住 所	〒 -
連 絡 先 電 話 番 号	
連 絡 先 Fax 番 号	
連 絡 先 E-mail	

- ① 個人単位でのお申し込みをお願い申し上げます。
- ② 振込手数料はご負担下さいますようお願い申し上げます。
- ③ 締切日（平成 26 年 1 月 31 日）を過ぎた場合は、会場での当日参加登録をお願い申し上げます。

大会事務局：第 23 回(社)日本有病者歯科医療学会総会・学術大会事務局 準備委員長：瀬戸美夏

〒 814-0180 福岡市城南区七隈七丁目 45-1 TEL：092-801-1011 FAX：092-801-1044

E-mail：jsdmcp23@fukuoka-u.ac.jp

巻 頭 言

歯科における専門医制度を考える

一般社団法人 日本有病者歯科医療学会

編集査読委員 山口 晃

本学会の今井 裕理事長の就任時挨拶の中に「本学会が必要なくなることを目指して」という言葉がありました。その真意は、一般開業医を含む全ての歯科医師が、基礎疾患を持つ有病者の歯科医療を問題なく普通に行えるような社会を目指して、本学会がその知識・技術の発展や啓蒙に尽力し、それが実現した時に使命を終えるということだったと思います。喜ばしいことに、本学会の会員数は順調に伸びており、論文投稿数も増えてきていますが、まだまだ大学関係や病院歯科、特に口腔外科・歯科麻酔科系会員が多数を占めています。今後は一般歯科診療所や他の歯科診療系の会員を増やす努力が必要と思われます。

さて、本学会の会員数増加の要因として、訪問診療や周術期口腔ケアへの参加、抗血栓療法やBRONJを始めとする各種基礎疾患治療薬と歯科治療との関係など、有病者歯科医療の必要性、重要性への関心が高まっていることがありますが、加えて認定医制度の制定があると思われます。

認定医・専門医制度は、学会にとって会員数増加に有効であるとともに、2つの目的があるとされています。1つは医師側にとって、知識・技術の向上を図るきっかけとなること、2つ目は患者側にとって安心してより良い医療を受けるための指標の一つとなることです。平成14年の厚労省公示により外形基準を満たす学会の専門医広告が可能となったため、特に医科系では専門医制度を持つ学会が乱立し、制度の統一性や質の担保に懸念が生じる結果となりました。一般に国民にとっての専門医のイメージは、特殊技能を持ったスーパードクターですが、実際は基本領域と特殊領域ではその専門の意味は異なっており、また、専門医の取得・維持のために行った手術による医療事故等の問題も生じたことから、厚労省「専門医の在り方検討会」により平成23年8月に中間まとめが発表されました。専門医を「各専門領域の標準的治療を行える医師」と定義し、第三者機関による認定、基本診療科目（総合診療医を含む）とサブスペシャリティ領域の二階建て方式とすることが要点ですが、地域毎の専門医数をコントロールすることにより医師・専門医の地域偏重を是正する国策もあるようです。

翻って、歯科領域の専門医はどうあるべきでしょうか。本来、歯科そのものが医科の総合診療医に相当する基本専門診療科目であり、現在の専門医は特殊領域とも考えられますが、その場合ほとんどがサブスペシャリティ領域となってしまいます。一方、医科の制度をそのまま歯科に適用することも問題があり、現在、歯学系学会協議会、日本歯科医学会、日本歯科医師会等の協力で検討がなされているようです。

医科系と同様に国民の理解が得られる歯科系専門医制度を確立するためには、先に述べた基礎疾患や全身管理に関する知識が不可欠であり、本学会はそれを下支えできるような研修制度やテキスト作成を行い、第三者認定機関を主導できるように準備しておく必要があるのではないかと感じています。

編集後記

22 卷 3 号より編集査読委員として査読させていただくことになりました。

私事ですが、第 1 回目の編集査読委員会の直前に手術室の歯科用エンジンのコードに引っ掛かり、足を捻じって骨折してしまいました（労災です）。2014 年は午年で颯爽と駆けだす予定でしたが、カメさんスタートになってしまいそうです。第 1 回目の重要な仕事ですので這ってでも参加しなくてはと、特殊な中敷き入りのスニーカーを履き出席しました。足の骨折というと石膏ギプスと松葉杖というイメージだったのですが、今はドイツ製のトリッシュャム（花かごのお花を挿す緑のスポンジ、オアシスのような材料）で足型を採りオーダーの「靴の中敷き」を作成し、それを靴の中に入れて骨折部に負担が掛らないようし治療させるという方法でした。石膏ギプスだと足首まで動かなくなり、普通に歩けるまで余計時間がかかるということだそうです。固定方法も日々進化するのだなと感銘を受けました。しかし、松葉杖もないので、一見、足を骨折しているようには見えず、満員電車で足を踏まれやしないかとヒヤヒヤしました。整形外科の先生に、妊婦さんに支給されるバッジのように「私、骨折中です」というバッジを作成したらどうか真面目に提案しました。査読委員会の方ですが、投稿論文数が急激に増え、坂下英明委員長はじめ委員一同、嬉しい悲鳴を上げながら会議を行いました。結果、新しい知見のある意義深い論文が 8 編掲載されることになりました。今後も、会員の先生方にはたくさん論文を投稿していただきたいと思います。

骨折の話に戻りますが、私もそろそろ骨密度が低下し、骨折予防のためにビスフォスフォネート（BP）製剤を服用しなくてはいけないのかなと考えましたが、根管治療されている歯が多い者としては、顎骨壊死（BRONJ）の発症リスクが高いのではないかと危惧してしまいます。BRONJ ですが、本学会では日本口腔外科学会と合同で「BRONJ ステージⅡに対する外科療法」に関する調査を行うことになりました。各施設にアンケート調査のお願いをすることになるかと思いますので、論文投稿と同様、ご協力の程宜しくお願い致します。

（編集査読委員 矢郷 香 記）